

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NIT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ4】

**国鉄・JR内ゲバ事件に対する松崎氏及びJR総連・東労組主張の「権力の謀略」論、「絶対に捕まることがない『何者か』による犯行」説は完全に破綻していること。**

わが国の労働組合で唯一と言って過言でないほど、国鉄時代の「動労」と現JR総連及びその傘下のJR東労組は、その過去に、内ゲバ事件に関わる「暗い歴史」を抱えている。

歴史を遡ると、昭和55年(1980)9月22日発生の小谷昌幸動労中央本部教育宣伝部長に対する革労協挟間派による襲撃事件を皮切りに、国鉄とJRの労働組合関係者とその妻等に対する、革マル派と対立関係にある過激派組織の手による内ゲバ襲撃事件が頻発した。

この種の事例は全通労働者や自治体労働者などに対しても幾度かは発生しているが、その回数において国鉄・JR労働者の場合とは到底比較にならない。

国鉄・JRにおいては、昭和55年(1980)9月から平成7年(1995)11月にかけて延べ18件の内ゲバ事件(警察発表)が発生し、死者5名の他、多数の重傷者を出しているのである。

また、重傷者の中からその後遺症により3年後に1名、4年後に1名の死者が出て、内ゲバ事件による死亡者数は合計7名(革マル派中央発行図書『黒田寛一のレーベンと為事』の記述では「8名<虐殺された鉄道労働者数>」)にも上っている。

このような「特殊・陰惨な歴史」を持つ企業と労働組合は、わが国では他に比肩すべき例がない。そして国鉄・JR内ゲバ事件の重要な特色は、被害者は全て「動労」又は「真国労」の関係者で、「国労」や「鉄労」、「全施労」などの関係者に対しては内ゲバ襲撃が行われたことは一度もないということだ。ここで「真国労」とは、「国鉄改革絶対反対の国労との心中を避けてJR会社に移住するために、国労内の革マルグループが国鉄改革の直前に国労を脱退して結成(昭和61年4月)した労働組合」である(参考:「『真国労』とは、86年4月7日、国労内のカクマルが、松崎の指令のもとに一斉脱退してデッチあげたカクマル組合である」<中核派機関紙「前進」>)。

これはつまり、「国鉄・JRを通じて、革マル派と対立関係にある過激派組織<中核派と革労協挟間派>が襲撃対象としていたのは、『旧動労革マル』と『旧国労革マル』(と両派が判断した者)に限定されている」ことを意味している。

ところが、国鉄・JRの組合関係者に対する全ての内ゲバ事件について、中核派又は革労協挟間派が凶行を自認し、堂々と犯行声明を発表しているにもかかわらず、被害者の革マル派とJR総連・東労組は、「凶行を行ったのは中核派でも革労協でもない」、「これらの事件は内ゲバ事件ではない」と言い張っている。このような奇妙な主張をしているのはわが国広と言えども革マル派と、JR総連及びJR東労組しかない。公安警察はもとより、マスコミ、労働組合関係者、労働・新左翼問題の研究者・学者などは、国鉄・JRの組合関係者について発生したこれら諸事件を、例外なく「内ゲバ事件」と認識している。

「...87年中の4件の内ゲバ事件も、すべて動労副委員長をはじめ、国鉄及び新会社JRの労組内の革マル派幹部活動家などを中核、解放(「革労協」のこと)両派が襲うなど、国鉄分割・民営化問題にからんで発生している。...」(高木正幸『新左翼30年史』)

<JR東日本労政『二十年目の検証』22ページから23ページより抜粋>

# 民主化の声・声・声・・・

2005.9.22 その4

## 内部抗争、青年部まで波及！

東労組長野地本松本支部情報紙「達観 15」によると、次のような記事が載っている。

### あまりにもひどい

8月28日～29日開催 第20回本部青年部定期委員会の現実  
～特徴点～ 「総団結」に対する考え方について

- ・ 組合員を楯にして、344会を呼ばないことは「反弾圧の否定」であり、同じ土俵にないことがはっきりとした。内なる敵である。（長野に向けて）
- ・ 会社の質、権力、そして内なる敵と本部青年部はたたかうことを明らかにする。

未来を担う青年部が、このまま突き進んでは非常に心配です。

既報のとおり、中央本部の地本大会無効指令や盗聴未遂事件、専従保留問題で揺れる長野地本であるが、今度は本部青年部からも長野地本が攻撃を受けている。

8月28日～29日、水上で開催された第20回本部青年部定期委員会で、何と長野地本が「内なる敵」にされてしまったのである。

同情報紙「達観 12・13」によると、9月12日には長野地本峰田委員長が本部に呼ばれ面談、9月20日の本部第3回中執で何らかの結論が出されるようである。しかし、これに先立ち、本部定期委員会に参加した千葉書記長は、『時間は動いている。足踏みしてはられない。（長野問題は）専従とかどうとかとのレベルではない。規約に基づいて淡々とやっていく』と本部感想を漏らしている。これに対し、長野地本は、『本部は制裁をするか、力でねじ伏せる非民主的な本部の組織運営に断固反対する』と息巻いている。

くすぶり続けるJR総連・東労組の内部抗争ではなく、自由にモノが言える職場をみんなでつろう。

民主化の声・声・声・・・（続く）

ジェイアール東日本労働組合青年女性委員会機関紙  
 **青女魂** 標示版  
 ジェイアール東日本労働組合 青年女性委員会  
 2005年 8月27日 第4号  
 発行責任者 上野 康広  
<http://homesae1.nifty.com/JR-FENG> 携帯電話用 <http://homesae1.nifty.com/JR-FENG/v1.htm>  
<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/JRTU/HK>

**義務と自由の  
バランスが  
とれた組織が  
われわれの  
目標です**

【JR東日本ユニオン青年女性委員会  
機関紙「青女魂」より】